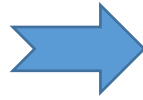


【1】 幼児期における教育の重要性

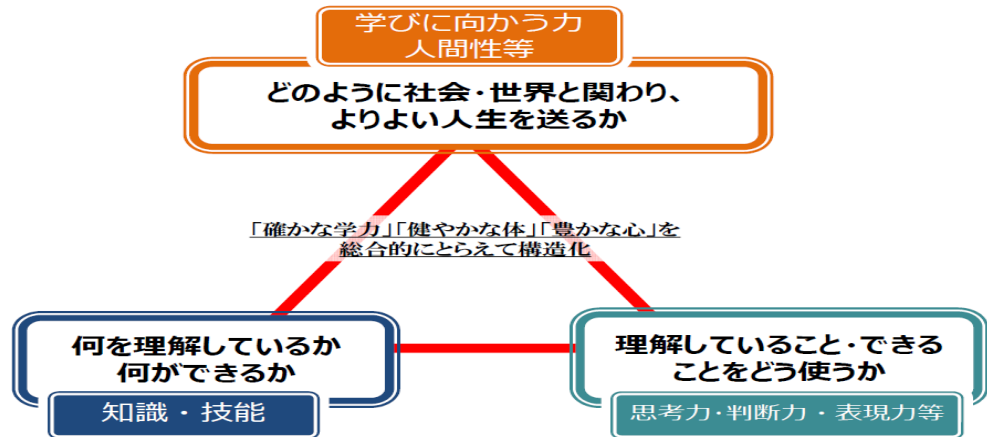
《学力観の大きな転換》

教員から知識・正解を
伝えられる 受動的な学び



自ら立てた問いに対し、チームとして協働
しながら解を見つけ、新しい価値を主体的
に創造していく学び

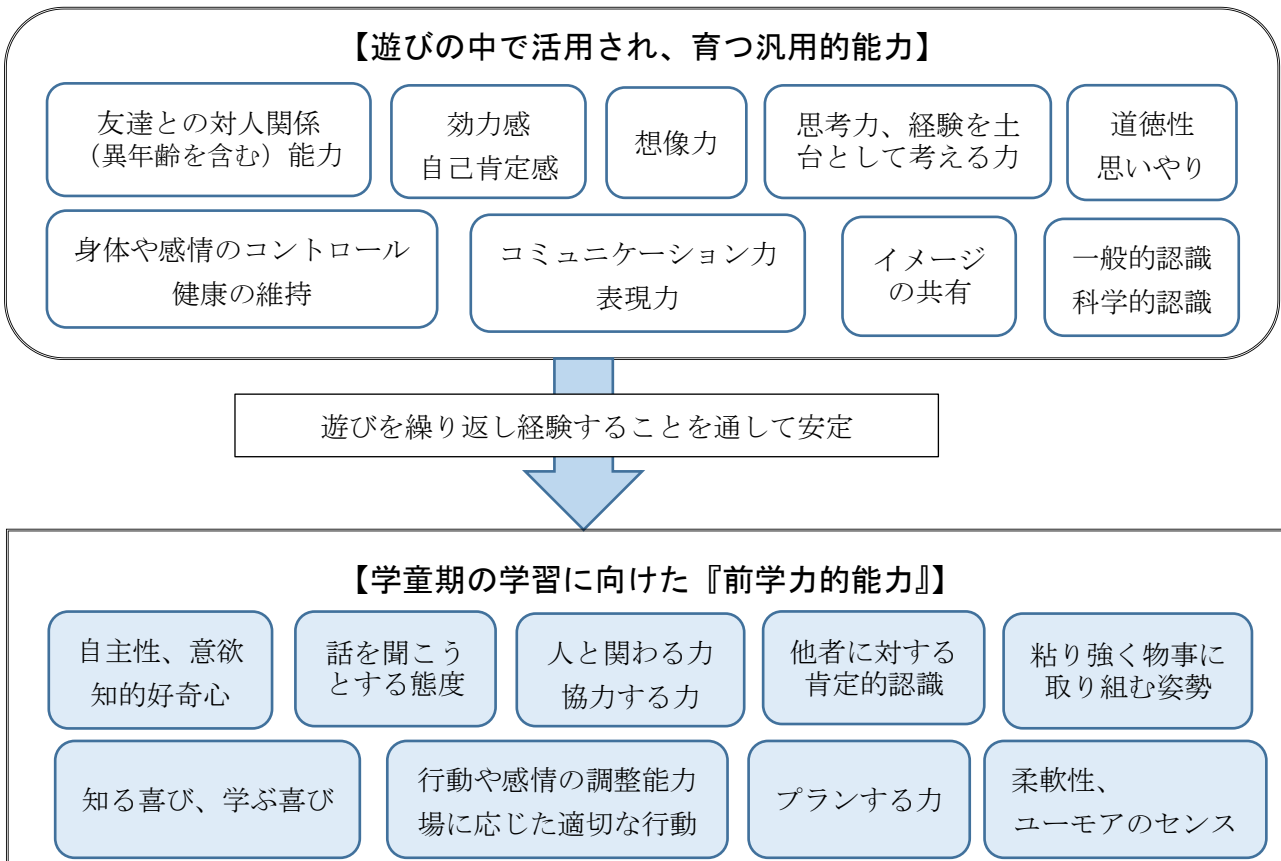
＜育成を目指す資質・能力＞



《保育所・幼稚園での学びの重要性》

～遊びを通して育つ「学力の土台となる力」～

長野県立大学健康発達学部こども学科長 太田光洋 氏著「遊びを通して育つ『前学力的能力』」から



【2】 幼児教育の質の確保・向上に係る課題

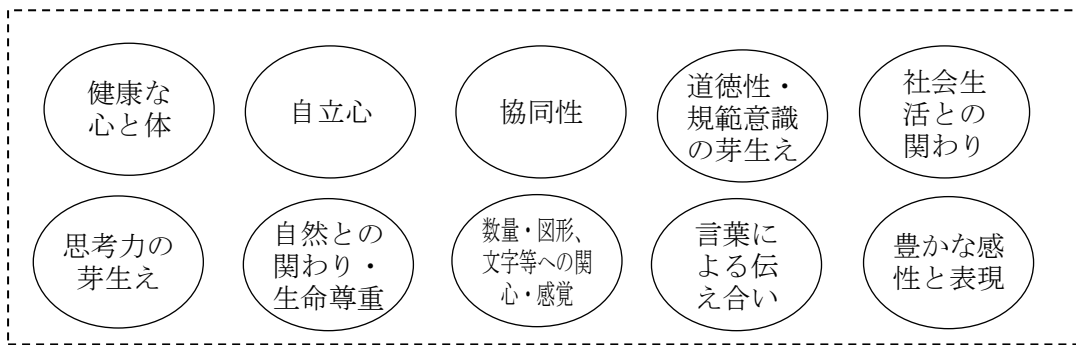
《幼児教育において育みたい資質・能力の明確化》

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の全てに次の項目が位置づけられた。

○「育みたい資質・能力」

- ・ 知識及び技能の基礎
- ・ 思考力、判断力、表現力等の基礎
- ・ 学びに向かう力、人間性等

○「育ってほしい姿」の明確化



「育みたい資質・能力」、「育ってほしい姿」は示されたが…

《質を担保する仕組みは？》

- ・ 育ってほしい姿の実現については、現場の裁量に委ねられており、質を担保する仕組みがないのではないか。

《質を担保する3つの観点と現状》

観点	幼稚園	保育所	認定こども園
内容	幼稚園教育要領	保育所保育指針	幼保連携型認定こども園教育・保育要領
人材	幼稚園教諭 (公立:初任研 17日間等)	保育士 (キャリアアップ研修等)	幼稚園教諭・保育士 (同左)
環境	職員配置基準 1学級 35人以下	職員配置基準 0歳児 3:1 1・2歳児 6:1 3歳児 20:1 4・5歳児 30:1	

《第1回幼児教育あり方検討会で指摘された課題と好事例》

委員 太田 光洋 氏（長野県立大学こども学科長）
 西山 薫 氏（清泉女学院短期大学副学長）
 土谷みち子 氏（関東学院大学教育学部教授）
 海野 暁光 氏（長野県保育連盟会長）
 宮川 義典 氏（長野県私学教育協会理事長）

	課題	好事例
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びの大切さを保育者(幼稚園教諭・保育士等)が共有しておらず、遊びの中で子どもの自己肯定感を高めていくことが不足している。 ・効率が優先された保育者優先の保育になっており、子どものやりたいことを中心とした保育になっていない。 ・配慮の必要な子どもたち（外国籍の子ども等を含む）の保育が確立されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「遊びにより子どもが育つ」ことを保育者が共有している。 ・子どもが遊びに夢中になれる環境づくりをしている。 ・乳幼児期からの様々な遊びや生活の中でいろいろな人と関わっている。
人材	<ul style="list-style-type: none"> ・人材育成の仕組みが確立されていない。 ・現場の多忙化により、研修へ出られない。 ・保育者の配置基準はクリアーされているものの、非正規化・嘱託化が進んでいるため、計画的な人材育成につながらない。 ・指導要録・保育要録が小学校で活用されていない。 ・保育の現場を小学校の教員が理解していない。 ・親子のつながりが希薄化しており、子どもの育て方が分からない親がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や園が人材育成に計画的に取り組むとともに、自己評価し、改善する仕組みを構築している。 ・幼児教育アドバイザーが園を巡回し、保育者に必要な資質・能力について助言等を行う。 ・神奈川県では、小学校の教員が園で長期にわたり研修している。 ・保護者の「みんなで私たちの子どもを育てる」という意識のもと、日常的な保育参加が行われている。

※ 環境については特に意見が出されなかった。

【3】今後の方向性

- ・長野県のすべての子どもたちに質の高い教育を実現するため、新たな長野県における幼児教育・保育の目指す姿、方針づくりに市町村、市町村教育委員会とともに取り組む。
- ・目指す姿の実現のため、市町村等と連携し、幼児教育支援センター（仮称）の設置をはじめとした体制構築について検討を進める。
- ・信州やまほいくの推進、幼保小連携・接続（スタートカリキュラム）の取組等、推進していく。